

IoTを活用した空気殺菌装置「エアロシールド」の機能向上プロジェクト

- 空気感染によって人から人に広がる「結核」については、日本国内においても、16,789人の感染があらたに報告されている（2017年）。大分県はインバウンド観光客の増大や大規模スポーツイベント開催に伴い、感染症が蔓延するリスクも想定される。
- 空気感染対策により、安心して暮らせる社会を実現する。

【構想図】

エアロシールド

紫外線の殺菌力を利用して空気を殺菌する装置



【課題】

（安全性の向上）

天井近くの空間に紫外線ゾーンをもうけることで、空気を殺菌しているが、予期せぬ人の動きが生じた際、紫外線照射停止等の機能を有していない。

（情報の一元管理）

適切なメンテナンスを行うため、製品からのデータ収集及び収集データの一元管理が必要。

※本プロジェクトで取り組む事項

【エアロシールドにIoT機能を付加した製品開発】

- ①紫外線ライト照射エリアの生物検知による照射コントロール機能
 - ②管理マネジメント機能（データ管理）
 - ③ランプ不照射や出力不足の早期検知
 - ④利用者への通知アプリ（効果の可視化）
- ※上記に不随するネットワーク接続機能、遠隔アップデート機能等

事業実施主体
（コンソーシアム構成員）

エネフォレスト（株）（大分市）、西日本電信電話（株）（大阪府）、北九州工業高等専門学校（合）Next Technology（北九州市）、（株）トランスコミュニカ（大分市）